

みなさんは「ありがとう」の反対語をご存じですか。テレビからこんな声が聞こえてきました。今まで考えたこともありませんでした。ですが、私は単純に「ごめんなさい」ではないのかと思いました。

答えは「当たり前」。どうしてなのか疑問に思い調べてみました。「ありがとう」は漢字で書くと、有ることが難しい（有難う）と書き、めったにないとの意味から感謝を表す言葉になったそうです。つまり奇跡や稀（まれ）の反対は「当たり前」ということなのです。

私の両親も高齢になり徐々に介護が必要になってきています。今まで「当たり前」のようにできていたことがだんだん出来なくなってきた、本人はもちろん、世話をしている者にとってももどかしい思いをすることがあります。そのようなことが積み重なってくると、腹立たしく思うこともあります。自分の心が折れそうになると、気持ちに余裕がなくなり、さまざまなことでもストレスをためてしまい、気持ちが空回りしてしまいます。そのような時に「ありがとう」の5つの音を耳にすると、心が落ちていて少し気持ちが楽になるよう

な気がします。

このように、自分自身や誰かのために一生懸命関わったことに、感謝やねぎらいの言葉などを掛けてもらえると、苦勞が報われたような気持ちになり、安堵感に包まれます。そして、これからの活力源にもなるので、言葉には不思議な力があると思います。

多くの人が、今日と同じ日が繰り返されると思い過ごしていると思います。誰かと会って話し、笑い、楽しい時を過ごす、こんな何気ない「当たり前」の出来事が、本当は奇跡の連続なのです。しかし、忙しく生活していると、そんなことにはなかなか気づきません。これからは「ありがとう」の思いを持って、毎日を大切に過ごしていきたいと思います。

「感謝の言葉」

※このシリーズは、あなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

■問い合わせ

人権啓発広報委員会

☎ 880:6569